

ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

No. 239

2014年

7～8月号

行 事 案 内

今夏から「サマータイム制」が始まります。集合時間などにご注意ください。

7月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 7月13日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前8時
案 内 長期予報の通りの長梅雨が明け、いよいよ夏本番。
沼畔はオオヨシキリやコアジサシ、ヨシゴイなどの夏鳥達で賑わっていることでしょう。
解 散 午前11時頃
担 当 松本

8月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 8月10日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前8時
案 内 暑さも本番ですが鳥たちはそろそろ秋の気配を感じている頃です。
引越しの準備をしているコチドリやオオヨシキリ、渡りの途中のシギ・チドリの姿に期待しましょう。
手賀沼で孵った幼鳥たちの成長した姿も楽しみです。
この時期ならではのヨシゴイに会いに浅間橋まで足を延ばす予定です。
水分補給と暑さ対策を忘れずに。
解 散 午前11時頃
担 当 野口(紀)、小林(寿)

7月、8月ピオトープ調査

期 日 7月3日(木) 雨天延期
8月7日(木) 雨天延期
集 合 手賀沼ピオトープ 午前8時30分
(7、8月は1時間早くスタートします)
案 内 7-8月のピオトープはヨシ、ヒメガマ、マコモ等の抽水植物に覆われるため、小鳥は探しにくくなりますが、池、田、沼の鳥、空を飛ぶ鳥を探してみましょ。夏を感じるオオヨシキリ、セッカの囀りも聞こえます。
昨年は7月16種、8月15種の野鳥を観察しました。また7月は木の花、草の花も多く咲き、蝶、トンボ等の昆虫、蛙の鳴き声も賑やかになります。8月になりますと木の実はなります。8月は夏休み中ですので、子、孫連れでの探鳥、昆虫等の観察も歓迎します。暑くなりますので暑さ対策もお忘れなく。
参加希望の方は下記までご連絡下さい。
解 散 午前10時30分
担 当 鈴木静治
Tel : 080-3121-4757

ホタルの夕べ

期 日 8月3日(日) 雨天中止
集 合 東我孫子駅前 午後7時
持 参 懐中電灯、虫除け対策のスプレー
など
解 散 午後8時を目安。東我孫子駅前
案 内 恒例の岡発戸・都部でのホタル鑑賞
会です。谷津田は整備されていて、
水辺や湿地の生物も増えています。
今年は何頭観察されるでしょうか。
去年は谷津全体で最盛期は261頭
でした。ホタル・アカガエルの里は
何頭出るでしょうか。楽しみです
我孫子市鳥の博物館友の会と共催
です。大勢の参加を期待しています。
観賞するホタルはヘイケボタルで
す。
青白く光るホタルは、幻想的です。
一度見てみませんか！

申 込 不要
担 当 木村、染谷

ファイル:一括コピーできるよう
発表者名のついたホルダーに収納
ファイル名:番号・題名・撮影場
所・日付・拡張子
例 01 ムナグロ 発作 120506.jpeg
(発作で12/05/06撮影)
画像サイズ:長辺 800~1280ピ
クセル以内(昨年と同一です。)
発表作品は当日ご持参ください。
ビデオもPCで上映します。
スライドショーはパワーポイント
を用います
デジタル画像は開始前にパソコン
にインストールしておきますので
午前9時まで相良宛提出してく
ださい。

申 込 相良直己まで
Tel: 04-7191-3108
担 当 相良、田中(恒)、石渡

懇 親 会

映 写 会

期 日 7月27日(日) 9:30~11:45
場 所 我孫子北近隣センター(並木本館)
1階 多目的ホール
案 内 本年度も、恒例の映写会を開催しま
す。
会員の撮った写真やビデオ、スライ
ドショーなどの作品を楽しみます。
作品を発表する方は7月19日(土)
までに、相良宛写真のテーマ・枚数
ビデオ等はテーマ・上映時間を連絡
してください。
写真はスライド、デジタル画像のい
ずれでも構いません。
但し、内容は鳥や動物など自然関連
のものとし、一人40枚以内としま
す。
デジタル画像ファイルは下記の通
りをお願いします。
メディア:USBメモリーまたは
CDR

期 日 7月27日(日) 12:30~15:00
場 所 「はな膳」我孫子駅北口
我孫子市我孫子1-11-8
Tel: 04-7179-0010

会 費 2100円(アルコール類は別途各自)
案 内 映写会で会員の皆様の素晴らしい
作品を堪能し、その後、映写会に参
加された方、ご都合で参加されな
かった方も一堂に会し昼食を摂りな
がら親睦を深めたいと思います。
昨年から女性陣が参加しやすいよ
うに 時間帯を変更しました。
多くの皆さまの参加をお待ちして
います。

申 込 畠中暁美まで 7月15日締切
Tel: 04-7185-0611
担 当 小林(寿)、野口(紀)、松下、畠中

第7回 野鳥サロン

日時 7月20日(日) 9:30~11:30
場所 けやきプラザ8階 第一会議室
テーマ 野鳥はじめ生き物の名前(和名)は、戦後小中学校の教科書が片仮名書きになったことからカタカナ表記が普通ですが、漢字も捨てたものではありません。
鳴き声はその名の由来の鳥も結構います。野鳥の鳴き声の微妙な違いを聞き分けてみましょう。
漢字クイズと英名資料配布
聞きたい鳴き声リクエスト

申込 松本勝英まで
Tel: 04-7187-1704

担当 松本、類地、六角、石渡

茨城南部 シギチ探鳥会

期日 8月31日(日) 雨天中止
集合 我孫子駅北口 午前8時
案内 シギ・チドリなどを探します。
昨年のルートをベースにします。
今年もアオアシシギの美声、オオハシシギとの再会を期待します。

交通 自家用車に分乗です。同乗者は運転者に1人1500円をお支払下さい。
車を提供できる方はその旨をご連絡下さい。

持物 観察用具、雨具、昼食・飲料水(途中のコンビニで購入可)
現地は、殆ど日陰がありません。熱中症対策もお忘れなく。

申込 松本勝英まで
Tel: 04-7187-1704

担当 六角、松本

奥日光探鳥会

期日 9月27日(土)、28日(日)

集合 我孫子駅北口郵便局前 午前7時
案内 昨年は5月に実施しましたが、今年は少し時期をずらしての開催となります。1日目は、午前中まず昨年見られなかった「水産総合研究センター」を見学し、午後は戦場ヶ原自然研究路から宿のある湯元温泉まで、湯滝を經由して散策しながら探鳥をします。2日目は切込湖、刈込湖方面から光徳牧場に出てくるコースを辿り山の鳥を見つけましょう。昨年は50種以上の鳥が認められましたが、今年はどうでしょう。夏鳥と冬鳥の入れ替わりの時期ですが、どうぞご期待ください。
(なお、天候によりコースの変更もあり得ます。)

交通 小型バス 定員21名
乗舎 「休暇村日光湯元」
Tel: 0288-62-2421

費用 24,000円(昼食は各自負担)
持物 観察用具、雨具、防寒具
定員 21名
申込 木村稔まで
Tel/Fax: 04-7182-7958

担当 木村、六角

7月役員会案内

日時 7月13日(日) 12:30~15:00
場所 水の館 3階研修室
議題 JBF2014 出展について
会報240号掲載予定記事について
26年度第1四半期会計報告
会員アンケートについて
第8回「野鳥サロン」について
報告事項
・関係団体関連報告
・新入会員オリエンテーション
・第6回「野鳥サロン」
その他(議題のある場合は野口隆也までご連絡ください。)

行事報告

4月手賀沼探鳥会

調査日時 2014年4月13日 9:00~12:00
晴れ 無風 19

4月に入り手賀沼の桜も散る中で寒暖の差が激しい日々が続いていましたが、当日は穏やかな好天に恵まれた探鳥会となり、参加者も38名を数えました。

スタートの北千葉導水機場では、冬の名残のコガモやオオジュリンが観察でき、遊歩道を歩くといつもの鉄塔にハヤブサが休憩中、と思うとヒヨドリの群れに急降下してハンティングを繰り返し、大サービスのパフォーマンスを見せてくれました。

途中の遊歩道では、ダイサギの目先が青緑色となった婚姻色が観察でき、ホオジロの囀りなど、鳥たちの繁殖期の始まりを感じさせてくれました。

下沼のお立ち台では、今シーズン最後のユリカモメやセグロカモメ、夏羽カンムリカイツブリが観察され、農地の電柱や斜面林の樹上ではサシバが久しぶりの姿を見せてくれ、いよいよ夏シーズンの到来を感じた探鳥会でした。

この日は、午後は定期総会、その後手賀沼遊歩道を歩くと、番いのキジが草地を闊歩し、水の入った泥田にはコチドリとタシギが見られました。これからが楽しみです。

なお、今回から、認めた鳥の記載順は「日本野鳥目録改訂版第7版」に則しています。

<認めた鳥>キジ、コブハクチョウ、カルガモ、コガモ、スズガモ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、クイナ、バン、オオバン、コチドリ、ユリカモメ、セグロカモメ、トビ、オオタカ、サシバ、ノスリ？、カワセミ、コゲラ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、セグロ

セキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ、オオジュリン 計43種

番外：カワラバト

<探鳥班>相良直己、野口隆也、大久保陸夫、村瀬和則、川越久枝、金子幸子、野倉元雄、武藤康之、荒井みどり、船津登、小澤淳宏、間野吉幸、畠中暁美、川村美智子、川村美恵子、松本勝英、松本葉子、松田幸保、小林博之、小林美智子、北崎正典、常盤孝義、西嶋昭生、北原建郎、猪爪敏夫、小玉文夫、六角昭男、千葉洋、渡辺俊文、村松寿夫、石渡成紀、小林寿美子、古出洋子、石井俊子、佐藤弘美、田丸喜昭、鈴木静治（担当）桑森亮 計38名

<カウント班>木村稔、田中功、染谷迪夫
調査日時 2014.4.13 9:30~12:15

曇りのち晴 東風弱 16

調査種	上沼	下沼	合計
コブハクチョウ	8	5	13
カルガモ	8	1	9
コガモ	17	4	21
カイツブリ	5	5	10
カンムリカイツブリ	3	4	7
カワウ	28	71	99
アオサギ	7	1	8
ダイサギ	0	1	1
コサギ	0	1	1
クイナ	1	0	1
オオバン	19	9	28
コチドリ	1	2	3
ウグイス	0	1	1
セグロカモメ	1	5	6
合計	98	110	208

<ピオトーブ班>猪爪敏夫、鈴木静治、船津登

調査日時 2014.4.5 9:30~12:00

晴時々曇 やや強い~弱風 13~15

湖畔の桜は満開でしたが、北西の風吹き肌寒い。白い富士山、柏駅のビル群がよく見え、沼は岸近くに泳ぐカルガモ、オオバン、カイ

ツブリ位で水鳥少ない。枯草のピオトープでは冬鳥 5 種(コガモ、アカハラ、ツグミ、アオジ、オオジュリン)、コブハクチョウとハシボソガラスの巣作り、抱卵が見られ、田の上を飛ぶ夏鳥ツバメが見られた。桜花を採食するスズメ、ヒヨドリも見る事が出来た。

観察された野鳥 26 種 131 羽。他に木、ツクシを含む野草の花が咲き始め、蛙が鳴き、蝶も飛び始めた。

< 認めた鳥 > キジ、コブハクチョウ、カルガモ、コガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、バン、オオバン、トビ、カワセミ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ムクドリ、アカハラ、ツグミ、スズメ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ、オオジュリン 計 26 種

5 月手賀沼探鳥会

5 月 11 日(日)定例探鳥会に代えて、バードウィーク手賀沼探鳥会を行ないました。手賀沼親水広場で開催された Enjoy 手賀沼！に併せ、我孫子市鳥の博物館との共催、山階鳥類研究所後援の行事でした。

探鳥会には 27 名の市民と 27 名の会員、鳥の博物館 2 名、合計 56 名の参加がありました。

コースはふれあい道路を東進し、高野山新田の信号の先を右折、遊歩道へ入り、滝下広場から遊歩道を戻りました。

今回も鳥合わせを鳥の博物館で行いました。晴天のもと、市民と会員のマンツーマンに近い形で、楽しく和やかに探鳥会を行うことができました。多くの市民が恒例の鳥ビンゴを完成、景品の写真カードを選ぶのに目を輝かせておりました。

< 認めた鳥 > キジ、コブハクチョウ、カルガモ、コガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、ゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、バン、オオバン、ムナグロ、コチドリ、コアジサシ、トビ、オオタカ、ノスリ、カワセミ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、オオヨシキリ、ムクドリ、スズメ、カワラヒワ、ホオジロ 計 31 種

番外 アヒル、カワラバト

< 参加会員 > 相良直己、間野吉幸、村瀬和則、畠中暁美、荒井みどり、北崎正典、百瀬喬、古出洋子、石井俊子、類地佑子、船津登、小澤淳宏、千葉洋、千葉史子、野倉元雄、染谷迪夫、渡辺俊文、小林博之、小林秀美、野口紀子、小林寿美子、西嶋昭生、六角昭男、松下勝子、小玉文夫、蒲田知子(担当)野口隆也 計 27 名

< カウント班 > 木村稔、田中功、染谷迪夫
調査日時 2014.5.13 8:20 ~ 10:45

曇りのち霧雨 17

調査種	上沼	下沼	合計
コブハクチョウ	2	1	3
カルガモ	3	3	6
カイツブリ	5	8	13
カワウ	23	22	45
アオサギ	0	1	1
ダイサギ	0	1	1
コサギ	0	2	2
オオバン	1	0	1
コチドリ	2	0	2
チュウシャクシギ	0	1	1
合計	36	39	75

< ピオトープ班 > 猪爪敏夫、鈴木静治、間野吉幸、池田日出男、蒲田知子、船津登
調査日時 2014.5.1 9:30 ~ 11:45

曇り ~ 晴 弱 ~ やや強い風 23

田植え前で沼の水位高く、水面波立つ。斜面林は新緑綺麗。水の入った田ではカルガモが泳ぎ、ツバメが飛び交い、コチドリが飛ぶ。トビをモビングするハシボソガラスが見られた。ピオトープの葦の繁みではホオジロの地鳴き、囀りがよく聞こえカワセミも鳴きながら飛ぶ。冬鳥のツグミ、アオジもまだ見られた。

観察された野鳥 20 種 77 羽。他にツツジ、コデマリ等の木の花、多くの野草の花が咲き、甲虫、カメムシ等も見られた。

< 認めた鳥 > キジ、コブハクチョウ、カルガモ、カイツブリ、カワウ、オオバン、コチドリ、ユリカモメ、トビ、カワセミ、ハシボソガラス、ツバメ、ウグイス、ムクドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ 計 20 種

秋ヶ瀬公園探鳥会

4月27日

チュウシャクシギを遠望

千葉 洋

意識的に鳥を観るようになって僅か1年、まだまだヨチヨチ歩きの探鳥2年生です。拙宅近くの柏ふるさと公園の常連さんたちの顔こそなんとか覚えましたが、スズメとホオジロがやっと判別できる程度、なんともおぼつかない限りです。そんな私に感想文とはなんとご無体なとも思いましたが、これも励ましと考え直し、駄文を綴ることといたします。

当日朝、参加者20人は車5台に分乗し、定刻8時に我孫子駅前を出発（現地で5名の方が合流）。梅雨を飛び越し夏を思わせる晴天下、乗せて頂いた野口車は軽やかに高速を疾走し、9時過ぎには現地着。最初の探鳥地は「子どもの森」。鬱蒼と茂った落葉樹林が陽を浴びて青々と葉を広げています。ああ爽快、と思ったのが大きな間違い。さえずりは聞こえても、鳥の姿は茂みに隠れて見えません。識別できたのはシジュウカラだけ。初心者には高難度のコースのようです。先輩方が次々と名前を挙げる鳥たちは何処だろうとキョロキョロしているうちに昼食の時間となり、「炊飯場」へ車で移動。大勢の家族連れのパーベキューの匂いを嗅ぎながら昼食を済ませ、いざ「ミドリシジミの森」へ（名前は県の蝶に由来）。ザリガニ釣りに興ずる子どもを眺めていたら、今度は迷子に。でも、たまたま近くにいた百瀬さんから、貴重な絶滅危惧種の丁子草を教えて頂いたのは幸運でした。子規も好んだ花のようで、「丁子草花甘そうに咲きにけり」という句があるとか。やっと本隊に合流し、中締め鳥合わせを済ませてから最終地の荒川総合運動公園へ。車の外気温表示は、朝の16から午後1時には30。水田を見下ろす土手の上からチュウシャクシギを遠望できたのを成果に、2時現地散会となりました。鳥果はともあれ、緑を満喫でき、楽しい一日でした。皆様ありがとうございました。

【幹事報告】

G・W最初の日曜。晴天に恵まれ秋ヶ瀬公

園は多くの子供連れで賑わい、駐車場の確保に先ずひと苦労。公園に入っても、賑やか過ぎることを避けたか夏鳥の姿はほとんど見られず、キビタキが何とか見られた程度。子供の森からピクニックの森に移動しても、沢山いるのは子供達だけで鳥影は相変わらず薄い。

公園を早めに切り上げ、予定に無かった大久保耕地へ清水さんの案内で移動し、チュウシャクシギ、ダイサギなどを楽しみ2時頃に現地解散した。

新緑の美しい中の、気持ちの良いハイキングを楽しんだ1日だった。

<認めた鳥>カルガモ、キジバト、ダイサギ、チュウシャクシギ、コゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、センダイムシクイ、オオヨシキリ、ムクドリ、シロハラ、キビタキ、スズメ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ 計22種 番外 ガビチョウ
<参加者>清水直樹、清水優希、清水浩樹、間野吉幸、渡辺俊文、荒井みどり、柴本法子、小玉文夫、相良直己、中根忠、中根洋子、百瀬喬、吉田隆行、古出洋子、天野睦子、野口隆也、千葉洋、金子幸子、川越久枝、蒲田知子、門井章、鈴木裕爾、鈴木幸子（担当）小澤淳宏、金子雅幸 計25名

筑波山探鳥会

5月3日

筑波山探鳥会に参加しました！

荒井みどり

我孫子野鳥を守る会に入会させて頂いて、一か月半。今回は、筑波山探鳥会に参加しました。「軽登山とはいえ、今の私の体力で登れるのだろうか？」という不安をかかえての参加でしたが、間野会長の「きつくないから大丈夫！」との言葉を頼りに当日を迎えました。

当日は、午前7時に我孫子駅に集合し、一路、筑波山へと向かいました。私はのんきに野口様の車の後部座席に身を任せ、野口様ご夫妻と鈴木（静治）様の楽しい会話に耳を傾けていました。ふと、気が付くと霧の中・・・。

鈴木様が、「水分が蒸発している霧だから大丈夫」と教えて下さり、私はなぜか「きっと山についたら晴れるな」と思いました。

ユースホステル跡地に駐車し、ケーブルカー部隊を筑波山神社側に送迎後の染谷様と合流し、本隊の登山が開始となりました。すでに天気は、快晴となっていました。

「感想文」とのことなので、参加者として単刀直入に感想を書きます。

「すごい楽しかった!」「沢山の命に出会えた、感じられた」「楽しい話をたくさん聞けて、いろいろ教わることができた」「合流後の自然研究路も素敵だった」「野口様や古出様からの差し入れ・煮込み・キムチ漬物・漬物・トマトが美味しかった」「薬王院でシジュウカラの巣をみつけた時の会員の皆様の行動(そっとしておきましょう。と、どなたも中を見ようとしなかった)には感銘した」などなど書き尽くすことのできない感動の連続でした。

出会いはあまりに多すぎたので、代表的なことを書きます。夏鳥の山の代表選手「キビタキ」「オオルリ」「コルリ」をみることができました。「センダイムシクイ」「ヤブサメ」「ツツドリ」は特徴的なさえずりで渡来を告げてくれ、まだ歌がちょっとへったぴいな「ウグイス」は、その声を自慢げに張り上げ私たちを楽しませ、姿までお披露目の大サーピス。ヤマガラは彼ららしくすぐそばでご挨拶。そして、「フクロウ」が午前9時過ぎにも関わらず、まあい顔で上空を飛んでいったのには、思わず歓声を上げてしまいました。「ソウシチョウ」は、大きい声を張り上げ何度も姿をみせにやってきました、すでにここが彼らの故郷なのでしょう。植物については、ユキザサ、タチツボスミレ、ミヤマシキミ等々本当にきりがありませんが、やはり今が盛りと咲き誇っていたニリンソウと、もう終わってしまったけれど、ほんの数輪だけ待っていてくれたかのように花をみせてくれたカタクリには特にありがとうと言いたいです。また、地域的希少種であるツクバキンモンソウにも。個人的な出来事としては、「大好きなコルリ」のポイントにはじめから居ながらも、みることができずとても残念でした。

最後になりましたが、幹事の皆様、そして今回ご一緒させて頂きました皆様、楽しく有

意義な時間を本当にありがとうございました。

【幹事報告】

今回の筑波山探鳥会は、筑波山は雨が降っていない、素晴らしい快晴でした。ゴールデンウィークの後半の初日とあって、御幸が原は登山客で混雑していました。ユースホステル跡の駐車場は満杯でした。登山途中でコルリ、キビタキ、センダイムシクイ、ソウシチョウなどに会い、植物もニリンソウ、ミヤマカタバミ、フモトスミレ、タチツボスミレ、ヒナワチガイソウなど可憐な春の野草に出会い、キビシヤミヤマシキミの樹木の花に癒され、少しきつい登りも我慢できました。自然観察路は一部崖崩れがあって、途中の東屋までしか行けずそこでUターンしました。薬王院で遅い昼食を摂り、鳥合わせの上、解散で帰路につきました。好天に恵まれ、緑、真っ只中、参加者も楽しそうに見えました。全員無事帰還 安堵!

<認めた鳥> カルガモ、ツツドリ、トビ、フクロウ、コゲラ、アカゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、コガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ、センダイムシクイ、メジロ、ムクドリ、コルリ、キビタキ、オオルリ、スズメ、ハクセキレイ、ホオジロ、アオジ
計 26 種 番外 ソウシチョウ

<参加者> 間野吉幸、野倉元雄、百瀬喬、石井俊子、松本勝英、松本葉子、小玉文夫、古出洋子、北原建郎、吉田隆行、小林博之、渡辺俊文、大久保陸夫、武藤康之、小川克子、荻野知子、野口隆也、野口洋子、荒井みどり、鈴木裕爾、鈴木幸子(担当)鈴木静治、染谷迪夫 計 23 名

松之山温泉 探鳥会

6月1日、2日

松之山温泉探鳥会に参加して

仲澤成二

ブッポウソウを見たい、撮りたい思いで今回の探鳥会に参加した新人です。

「一日目」

6月1日(日)快晴、我孫子駅北口ふれあい広

場前を小型バス(20名)で朝7時半出発しました。車は外環 関越道 十日町市へ途中少し渋滞があったが12時過ぎに現地到着、新緑が美しい素晴らしい景色、大自然で心も体もリフレッシュされます。

ブッポウソウの出現を待ち車道の坂道でカメラを準備していると鳥の声があちこちから聞こえる。なんだろう、ノジコかカワラヒワかサンショウクイか、「ゲゲゲゲ」ではない。誰かの「いたいた」という声で、飛んでいるブッポウソウを発見、夢中でシャッターを切った。少し遠いが証拠写真、よかった～。坂を下るカーブ右上の枯れた木に2羽のブッポウソウを車窓から発見、急いで下車、カメラを構えた瞬間飛んでしまった、残念、残念。

今日は四か所のポイントで探鳥、30種の鳥が確認できました。

旅館に着き温泉でゆっくり手足を伸ばし温まる、夕食は山菜のおもてなし、ビールで乾杯、今日の楽しい探鳥の話、珍事など笑いが絶えない食事会で全員が七福神の顔でした。

「二日目」

6月2日(月)4時40分旅館前集合探鳥スタート、今回は4名の女性が参加しました。最初の探鳥地は、なんと「美人林」です。早朝のブナ林は木々の隙間から差し込む光が幻想的でした。林の中の散歩道は落ち葉でふわふわと絨毯のようでした。

突然静寂を突き破る、けたたましいドラミング、オオアカゲラでしょうか？探しても姿が見えません。林の先でクロツグミにも出会え、約50mの距離で撮影しました。サンショウクイと思いシャッターを切っていたが皆で確認するとチゴモズと判明、大騒ぎになりました。少し移動すると目線より下にチゴモズを見つけ撮ることが出来ました。上面は茶褐色でした。

ノジコを発見した時は、かわいい、かわいい～と甲高い女性の声。もう一度ブッポウソウを見たいと思い昨日のポイントに行く、車窓から飛んでいるのが見えたので急いで下車したが見失いました。しかし今日は期待できそうな感じ、坂の車道で機材を担いで行ったり来たり。(去年はこの電線に止まった、下見では木の先端に止まったとの情報もあ

ります。)暑いけれど新緑を吹き抜ける風は気持ちいい。我慢が肝心、営業しそうな場所も見ましたが姿見えず・・・。

2時頃引き上げる予定で待つ。駄目か、探鳥は運命か...もう時間が、残念な思いで車に乗り外を見る、車が静かに動き出しました、坂の途中カーブ右上枯れ枝で昨日と同じ場所になんとブッポウソウが止まっていた。急いで車を降り撮影開始、少し遠かったが最後に全員が確認できてラッキーな探鳥会でした。

今日は五か所のポイントで探鳥、36種の鳥が確認できました。

途中渋滞もなく6時半過ぎ我孫子に到着しました。幹事さん、有難うございました。

【幹事報告】

晴天を祈り過ぎたか30度を超す快晴の下、会としては初めての松之山地区の探鳥会を実施した。暑さにもめげぬ参加者の熱意が、この地域を代表する鳥のほぼすべてを見られると言う結果をもたらせた。特に、全国でも10番^{つが}いもないのでは...とされているチゴモズを全員が、それも至近距離で見られた幸運にも恵まれ、目と耳ともに楽しめた大満足の探鳥会でした。

<認めた鳥>カルガモ、アオサギ、ホトトギス、カッコウ、アマツバメ、ハチクマ、トビ、サシバ、ノスリ、アカショウビン、ブッポウソウ、コゲラ、オオアカゲラ、サンショウクイ、サンコウチョウ、チゴモズ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、コガラ、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、オオヨシキリ、ゴジュウカラ、ムクドリ、クロツグミ、キビタキ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、イカル、ホオジロ、ノジコ計40種

<参加者>問野吉幸、丸嶋紀夫、野口隆也、野口洋子、浅野利幸、仲澤成二、荒井みどり、小山雄司、大久保陸夫、鈴木静治、鈴木裕爾、鈴木幸子、中野久夫、池田日出男、古出洋子、小澤淳宏、中根忠、松本勝英(現地参加)阿保進、阿保国子(幹事)松田幸保、金子雅幸 計22名

「第5回野鳥サロン」報告

第5回野鳥サロンが3月30日、我孫子北近隣センター並木本館にて開催され、当日参加を含め、26名が参加した。

最初のテーマは、「山階鳥類研究所と野鳥を守る会との関わりについて」。

染谷さんが、当会にもご縁のある野口澄夫さんの著作を引きつつ「山階鳥類研究所」と「鳥の博物館」の歴史と、当地に設立された経緯、及び、当会との関わりについて説明。今まで知る機会がなかった事柄だけに、皆さんは興味深かそうに聞き入っていた。

続いて、田中功さん監修の弘實さんの力作、「托卵について」。

豊富な図版とともに、何故托卵が行われる

のか、托卵する側とされる側とがたがいに対抗しつつ進化してきたことなど、盛りだくさんの内容を詳しく、分かりやすく説明した。

田中さんより「カッコウの巣の下で」という往年の名画のタイトルについて、彼の地には托卵しないカッコウもいるので間違いではない、といった新たな知識も披露され、皆さんは一様に頷いていました。

<参加者> 天野睦子、千葉洋、松下勝子、金子幸子、類地佑子、古出洋子、間野吉幸、相良直己、石井俊子、小澤淳宏、池田日出男、野口隆也、船津登、青木典子、関口小夜子、畠中暁美、松田幸保、大久保陸夫、小玉文夫、蒲田知子、弘實和昭、木村稔(担当幹事) 染谷迪夫、田中功、田中恒雄(欠) 野口紀子、弘實さと子 計26名

平成26年度定期総会報告

平成26年4月13日(日)13時30分~14時40分、水の館3階研修室において平成26年度定期総会が開催されました。

平成25年度事業報告及び決算・会計監査報告、平成26年度事業計画及び予算について、質疑応答を経て異議なく原案通り承認されました。総会出席者は31名でした。

平成26年度事業計画

1. 探鳥会の実施

定例手賀沼探鳥会

原則、毎月第2日曜日に手賀沼を中心に午前中探鳥します。

(但し、7~9月はサマータイム制を導入して午前8時から)

遠出探鳥会

地元を離れ、遠隔の探鳥地を訪ねます。1泊2日の探鳥会を3~4回、近郊日帰り探鳥会を9~10回程度実施します。

第25回バードウィーク手賀沼探鳥会 Enjoy手賀沼! イベントの一環として、我孫子市鳥の博物館との共催で市民対象の手賀沼周辺の探鳥会を実施します。市民手賀沼探鳥会 我孫子市環境レンジャーとの共催で、

手賀沼の冬鳥の探鳥会を実施します。

手賀沼親子ふれあい探鳥会

手賀沼流域フォーラム地域企画の一環として、手賀の丘公園~手賀沼(下沼)コースで親子ふれあい探鳥会を実施します。集合場所は我孫子駅北口ふれあい広場前に変更します。

2. 野鳥等の調査及び保護

手賀沼水鳥カウント

手賀沼で見られる水鳥の種類と個体数を毎月1回調査します。1977年から続けています。

手賀沼ビオトープの鳥類調査

手賀沼ビオトープとその両サイドで見られる鳥類の種類と個体数を毎月1回調査します。1999年から続けています。

データベースの整備・構築

手賀沼水鳥カウント、会員からの鳥情報、更に会員撮影による野鳥等の写真、会の活動記録をデータベースとして整備・構築します。

傷病鳥の保護等

市内外で発見された傷病鳥や幼鳥などを保護・飼育し、快復後放鳥します(県

- 鳥獣保護ボランティア活動の一環)
3. 環境保全活動
手賀沼ふれあい清掃及び手賀沼統一クリーンデイに参加します。
美しい手賀沼を愛する市民の連合会の構成団体として、手賀沼流域フォーラム、手賀沼の浄化活動等に積極的に参加します。
ホテルのタベ
我孫子市鳥の博物館友の会と共催でホテルの観察会を行います。
4. 広報啓発活動
会報の発行、配布
会報「ほーほーどり」を隔月に発行・配布して会員間のコミュニケーションを図ります。公共機関、学校、友好団体、報道関係等に贈呈し、当会のPR及び人と野鳥が共存できる環境づくりの大切さを発信します。
ホームページの運営
運営委員会を開催し、内容の充実を図ります
メーリングリストの運営
会員、関係者間の情報連絡手段の重要なツールとして、利用者の増加と有効活用の検討をしていきます。
対外広報
当会の活動内容や手賀沼周辺の野鳥情報等の発信を積極的に行います。
探鳥会の指導
学校や他の団体等から手賀沼周辺の観察依頼には、可能な限り対応します。
対外発表等
当会の活動内容を積極的に情報発信し、当会のPRをします。又、地元で開催される環境や野鳥に関係するイベントには積極的に参加し、会員の日常活動の成果を発表します。
5. 創立50周年に向けて「次の一步の取組み」
鳥類目録変更に伴う見直し作業を実施します。確認された鳥リスト、ホームページ鳥図鑑等の見直しをします。
デジタル野鳥図鑑の作成に取り組めます。
メーリングリストの更なる有効活用を図ります。

- 守る会活動全般について会員アンケートを実施します。
対外啓発活動(手賀沼周辺の鳥情報等の発信)のステップアップを図ります。
過去の活動のデータ整理と今後の活用策を検討します。ホームページ、メーリングリスト、DVD、パンフレット等で発信します。
6. その他
新入会員向けのオリエンテーションを引き続き実施します。
会員向けの「野鳥サロン」を引き続き隔月で開催します。
映写会を開催し、会員が撮影した野鳥、昆虫、草木、風景、会の活動やビデオ等を観賞します。
定期総会(4月) 役員会(年6回隔月) 事務局会議(年6回隔月)を定期的に開催し、当会の運営上の諸問題を検討・対処していきます。
季節に応じ、会員の親睦を図るための懇親会、芋煮会を企画します。
行政機関等の各委員会、意見交換会に積極的に参加し、当会としての意見提案や情報発信をします。

平成 25 年度決算および平成 26 年度予算

(単位 円)

	25 年度決算	26 年度予算
収入の部		
会費	302,000	300,000
会行事収入	1,423,532	1,500,000
その他の収入	89,553	0
前年度繰越金	984,194	713,614
合計	2,799,279	2,513,614
支出の部		
野鳥の部	1,434,234	1,540,000
環境保全の部	0	10,000
啓発活動の部	246,943	250,000
庶務の部	80,260	101,000
その他費用	24,228	50,000
別途積立金	300,000	0
次期繰越金	713,614	562,614
合計	2,799,279	2,513,614

5月役員会報告

日時 5月11日(日) 13:30～16:20
 場所 我孫子北近隣センター 並木本館
 会議室3

1. 平成26年度下期行事計画について資料に基づき検討し、次の通り決定。

期 日	平成26年度下期行事
10/2(木)	ビオトープ調査
10/12(日)	午前:手賀沼定例探鳥会、 カウント
10/18(土)	葛西臨海公園探鳥会
11/未定	第9回野鳥サロン
11/1(土)	ジャパンバードフェスティバル
2(日)	
11/6(木)	ビオトープ調査
11/9(日)	午前:手賀沼定例探鳥会、 カウント 午後:役員会
11/23(日)	清里・軽井沢探鳥会
24(月祝)	
11/30(日)	親子ふれあい探鳥会 (流域フォーラム主催)
12/4(木)	ビオトープ調査
12/7(日)	統一クリーンデー、ふれ あい清掃
12/14(日)	午前:手賀沼定例探鳥会、 カウント
12/21(日)	探鳥会/芋煮会
12/23(火祝)	涸沼探鳥会
12/25(木)	長寿大学探鳥指導
1/未定	第10回野鳥サロン
1/4(日)	小見川・神之池・江戸崎 探鳥会
1/8(木)	ビオトープ調査
1/11(日)	午前:手賀沼定例探鳥会、 カウント 午後:役員会
1/17(土)	房総の港巡り探鳥会
18(日)	
1/25(日)	市民手賀沼船上探鳥会 (環境レンジャー共催)
1/31(土)	井頭公園探鳥会
2/1(日)	亀成川探鳥指導

2/5(木)	ビオトープ調査
2/8(日)	午前:手賀沼定例探鳥会、 カウント
2/15(日)	渡良瀬遊水地探鳥会
3/未定	第11回野鳥サロン
3/1(日)	銚子・波崎カモメ探鳥会
3/5(木)	ビオトープ調査
3/8(日)	午前:手賀沼定例探鳥会、 カウント 午後:役員会

2. 会報239号掲載予定記事について資料に基づき検討の上、決定。
3. 26年度役員の仕事別分担について資料に基づき協議、一部修正の上、承認。
4. 「野鳥サロン」担当者の改善資料に基づき検討、一部修正し、承認。
5. 探鳥会における運転者及び下見代に対する費用分担について資料に基づき論議の結果、次の通り決定。
 - ・定例探鳥会の運転費用分担については、提案通り、同乗者が@100円を運転者に支払うこととし、下期(10月)から実施。尚、非会員及び子供については従来通り無料
 - ・日帰り探鳥会下見代については、当会の予算から支払う方向で、会費の値上げも含めて検討。尚、バス等を利用する場合は、参加者が実費を負担
 - ・探鳥カウントの運転費用については、メンバーの意向も踏まえた上で、当会の予算から支払う方向で検討
 - ・一泊探鳥会の下見代については、従来通り参加者が実費を負担
6. 報告事項

資料に沿って次の事項を報告し、了承。

JB F総会及び第1回実行委員会
美手連関係

 - ・手賀沼流域フォーラムの地域イベントに当会も参画(11/30)
 - ・美手連総会と講演会(6/7)
 - ・手賀沼基金助成金事業に応募

手賀沼アートウォーク(8/7～12)
手賀沼学会(7/5) 以上

鳥 だ よ り

- 3.22 [高野山新田] アリスイ (1) 14:44、遊歩道脇の枝に飛来、時折地面に降りて水浴び
飯泉仁・飯泉久美子
- 3.22 [手賀沼遊歩道] アリスイ (1) 船津登
- 3.22 [片山] オカカ (1) 13:07、上空を飛翔
飯泉仁・飯泉久美子
- 3.22 [北新田] ノシリ (1) 電柱から飛去
中野久夫
- 3.22 [片山] ヤマガラ (2) 12:32、林の中を鳴きながら移動
飯泉仁・飯泉久美子
- 3.23 [江蔵地] オカカ (1) 獲物を足で掴み飛ぶ
鈴木静治
- 3.23 [江蔵地] ヒ (2) 上空高く旋回する
鈴木静治
- 3.23 [江蔵地] ノシリ (1) 上空高く飛ぶ
鈴木静治
- 3.23 [古戸] ハイチュウヒ (1) 川岸より飛び立つ
鈴木静治
- 3.23 [江蔵地] ハブサ (1) 獲物を持つオカカを追いかける
鈴木静治
- 3.23 [江蔵地] ヘニシコ (1) 柳の枝にとまり花穂を啄む
鈴木静治
- 3.23 [江蔵地] オカカ (1) 河原の枯れた葦にとまる
鈴木静治
- 3.23 [江蔵地] ミサコ (1) 上空を飛ぶ
鈴木静治
- 3.24 [北新田] クサヅキ (1) 4号排水路で
中野久夫
- 3.24 [片山(手賀の丘公園)] ノシリ (1) 木から飛ぶ
船津登
- 3.24 [片山(手賀の丘公園)] ヤマガラ (3)
船津登
- 3.27 [下沼田] ヨウゲンボウ (1) 農道の電柱にとまる
鈴木静治
- 3.27 [布瀬新田] ヒ (1) 川の上を飛ぶ
鈴木静治
- 3.29 [日秀] ヨウゲンボウ (1) 13:30、斜面林上空でオカカリング
飯泉仁・飯泉久美子
- 3.29 [片山] ヒ (1) 12:22、上空を旋回
飯泉仁・飯泉久美子
- 3.29 [北新田] ノシリ (1) 電柱から飛去
中野久夫
- 3.30 [手賀沼遊歩道] アリスイ (1) 手賀沼遊歩道にアリスイが飛来。キィキィキィと
中野久夫
- 3.31 [岡発戸] ヒ (1) カラスに追いかけられる
鈴木静治
- 3.31 [片山(手賀の丘公園)] ヤマガラ (1)
船津登
- 4.01 [北新田] ノシリ (1) 越流堤横柳上
中野久夫
- 4.02 [中峠] サバ (1) 中峠の斜面林にサバ来ている。
松本勝英
- 4.02 [江蔵地] ヒ (1) ピューヒッピッと鳴きながら飛ぶ
鈴木静治
- 4.02 [江蔵地] オカカ (1) 葦の先にとまる
鈴木静治
- 4.05 [中沼田] ヨウゲンボウ (1) 農道の電柱にとまる
鈴木静治
- 4.05 [岡発戸新田] ヒ (1) 沼の上空を飛ぶ
鈴木静治・猪爪敏夫・船津登
- 4.06 [若白毛] サバ (1) 13:45、上空を旋回
飯泉仁・飯泉久美子
- 4.06 [柏市] ツミ (2) 9:56、雌雄が交尾行動
飯泉仁
- 4.07 [北新田] ヒ (1) 飛翔
中野久夫
- 4.07 [片山(手賀の丘公園)] ヤマガラ (1)
船津登
- 4.09 [手賀沼遊歩道(滝下広場付近)] アリスイ (1) 木に止まる
船津登
- 4.09 [中峠] サバ (3) 今日、3羽が盛んに鳴きながら飛翔。
松本勝英
- 4.09 [布佐平和台] ハブサ (1) 住宅上空を飛ぶ
鈴木静治
- 4.12 [鷲野谷] サバ (2) 11:12、雌雄各1羽、雄が雌に餌をプレゼント
飯泉仁
- 4.12 [柏市] ツミ (2) 9:18、雄が雌に餌をプレゼント
飯泉仁
- 4.12 [北新田] ヒ (1) 畔上
中野久夫
- 4.12 [布瀬新田] ノシリ (1) 電柱上にとまる
鈴木静治
- 4.13 [手賀沼辺] オカカ (1) 上沼1
染谷迪夫・木村稔・田中功
- 4.13 [酒井根6丁目 下田の森] ツミ (1) 14:05、若鳥が木の天辺に止まっていた。その後、北北東方向に渡去
飯泉仁・飯泉久美子

- 4.13 [柏市] ツミ (2) 10:20、雌雄各 1 羽、
巣に巣材を運搬 飯泉仁
- 4.13 [北新田] ヒ (1) 飛翔 中野久夫
- 4.13 [手賀沼辺] ハヤフサ (1) 上沼 1
染谷迪夫・木村稔・田中功
- 4.14 [片山(手賀の丘公園)] 材カ (1) 林
に飛んで入る 船津登
- 4.14 [中峠] ヒレンジャク (14) 自宅前の杉の
梢に小太りの見慣れぬ群れ、ヒレンジャ
クだった 松本勝英
- 4.16 [発作] セッカ (1) 鳴き声が聞こえる
(初認) 鈴木静治
- 4.16 [北新田] チュウ (1) 越流堤横ヨ原上
を飛翔 中野久夫
- 4.17 [柏市] ツミ (2) 9:11、成鳥雄が雌に餌
をプレゼント 飯泉仁
- 4.17 [柏市] ツミ (2) 9:36、雌雄が交尾行動
 飯泉仁
- 4.19 [北新田] クサキ (3) 4 号排水路で
 中野久夫
- 4.19 [手賀沼遊歩道] コムクドリ (5) コムク
ドリの群れが、桜の枝に分散してとまっ
た。枝から枝に飛び移りながら夢中にな
って採食。 中根忠
- 4.19 [手賀沼遊歩道(親水広場付近)] コム
クドリ (3) 桜の花がらをついばむ 船津登
- 4.20 [北新田] クサキ (3) 4 号排水路で
 中野久夫
- 4.20 [泉村新田] サバ (1) 15:40、雄成鳥が
電柱に止まっていた 飯泉仁・飯泉久美子
- 4.20 [箕輪新田] サバ (2) 16:01、林縁の
木に止まっていた 飯泉仁・飯泉久美子
- 4.20 [北新田] チョウゲンボウ (1) 電柱上
 中野久夫
- 4.20 [我孫子新田] ツグミ (1) 畑(家庭菜
園)にて採餌(終認) 田中功
- 4.20 [柏市] ツミ (2) 9:48、雌雄がそれぞれ木
の枝を折り、巣に運び入っていた 飯泉仁
- 4.20 [柏市] ツミ (1) 10:18、雄個体が獲物
を足にぶら下げて巣の中の雌に渡してい
た 飯泉仁
- 4.20 [片山新田] ヒ (2) 14:58、東方向か
ら出現し上空で旋回し西方向に渡去
 飯泉仁・飯泉久美子
- 4.20 [北新田] ヒ (1) 飛翔 中野久夫
- 4.20 [片山新田] ノリ (1) 14:58、水田を耕
起していた近くの電柱に止まっていた
- 飯泉仁・飯泉久美子
- 4.21 [柏市] ツミ (2) 11:01、雌雄が枝に止
まり、交尾行動 飯泉仁
- 4.22 [片山(手賀の丘公園)] 材カ (1)
キョキョと 3 回鳴く 船津登
- 4.22 [片山(手賀の丘公園)] ヒ (1) 木
の枝でさえずる 船津登
- 4.22 [片山(手賀の丘公園)] セガムシイ
(1) 葉の間を動く 船津登
- 4.22 [片山(手賀の丘公園)] ヤマガラ (3)
 船津登
- 4.22 [北新田] オヨシキリ (1) 休耕畑で囀り
(初認) 中野久夫
- 4.23 [高野山新田] コムクドリ (3) 桜の枝に
とまる(初認) 鈴木静治・大久保陸夫
- 4.24 [北新田] 材カ (1) 飛翔 中野久夫
- 4.25 [発作] オヨシキリ (1) 葦原で囀る(初
認) 鈴木静治
- 4.25 [手賀沼遊歩道] コムクドリ約 10 此処では
桜の木にいる青虫などを食べているよう
です。手賀沼遊歩道の上空を 10 羽位のオス・メス
混合の群れで飛び回っています 中根忠
- 4.25 [発作] セッカ (1) 囀りながら飛ぶ(初
認) 鈴木静治
- 4.25 [千間橋] ヒ (1) 川で獲物をつかみ
河原に持ち込む 鈴木静治
- 4.25 [新木] ムクドリ約 30 水の入り始めた田
で休む(初認) 鈴木静治
- 4.26 [片山] オルリ (1) 11:29、鳴き声
 飯泉仁・飯泉久美子
- 4.26 [片山] ヒ (2) 11:29~11:31、林
の中の谷で囀り 飯泉仁・飯泉久美子
- 4.26 [泉村新田] サバ (1) 11:38、電線に
止まった後、水田に降りて餌を捕獲
 飯泉仁・飯泉久美子
- 4.26 [柏市] ツミ (2) 9:03、雌雄が同じ枝に
とまり、交尾行動 飯泉仁
- 4.26 [柏市] ツミ (1) 9:25、雌が巣材を足に
ぶらさげて巣に運搬 飯泉仁
- 4.26 [箕輪新田] ヒ (1) 15:52、上空を旋
回 飯泉仁・飯泉久美子
- 4.26 [北新田] ハヤフサ (1) 電柱から飛去
 中野久夫
- 4.26 [発作] オヨシキリ (2) 13:12、葦原で鳴
いていた 飯泉仁・飯泉久美子
- 4.27 [柏市] ツミ (1) 10:43、雄が巣材を足
にぶらさげて巣に運搬 飯泉仁

- 4.27 [手賀沼 上沼] ミサコ (1) 飛翔 志賀鉄雄
4.28 [北新田] ヒ (1) 飛翔 中野久夫
4.29 [片山(手賀の丘公園)] 材カ (1) キョキョと鳴く 船津登
4.29 [片山(手賀の丘公園)] 牝 (1) 小枝でさえずる 船津登
4.29 [片山(手賀の丘公園)] ヤマガラ (3) 船津登
4.29 [片山(手賀の丘公園)] ツグミ (1) (終認) 船津登
4.30 [発作] キツシキ (1) 水の入った田で採食 (初認) 鈴木静治
4.30 [発作] キョウヨシキ 約30水の入り始めた田で休む (初認) 鈴木静治
4.30 [発作] コムドリ十数羽手賀川近くの林で渡り途中の十数羽のコムドリの群れを観察。 鈴木静治
4.30 [相島] チョウヤクヅク (5) 水の入る田で採食 (初認) 鈴木静治
4.30 [発作] ツグミ約 20 林の木の上に集まる (終認) 鈴木静治
5.01 [岡発戸新田] ツグミ (1) 田の畔を歩く (終認) 鈴木静治・猪爪敏夫・間野吉幸・池田日出男・蒲田知子・船津登
5.01 [岡発戸新田] ヒ (1) 上空でハシロリがより攻撃される 鈴木静治・猪爪敏夫・間野吉幸・池田日出男・蒲田知子・船津登
5.04 [柏市] ツミ (1) 10:09、雌個体が巢の外に出た 飯泉仁
5.04 [北新田] ヒ (1) 飛翔 中野久夫
5.06 [柏] チョウゲンホウ (5) 13:29、成鳥が営巣場所に餌を持参し出入り、巣の中には幼鳥3羽 飯泉仁
5.06 [柏市] ツミ (1) 9:23、雄個体が巢に入る 飯泉仁
5.07 [若白毛] キヒタキ (1) 林で囀り 志賀鉄雄
5.07 [片山(手賀の丘公園)] 牝 (1) さえずる 船津登
5.07 [若白毛] センダ イシキ (1) 林で囀り 志賀鉄雄
5.07 [北新田] チョウゲンホウ (1) 飛翔 中野久夫
5.07 [北新田] ヒ (1) 飛翔 中野久夫
5.07 [泉] ノリ (1) 上昇気流に 志賀鉄雄
5.08 [布瀬] キヒタキ (1) 林で囀り 志賀鉄雄
5.08 [布瀬] サコウチヨウ (1) 林で囀り移動 志賀鉄雄
5.08 [布瀬] ヒ (1) 声 志賀鉄雄
5.09 [泉] キヒタキ (1) ゴルフ場林で囀り 志賀鉄雄
5.09 [北新田] ヒ (1) 飛翔 中野久夫
5.10 [若白毛] キヒタキ (1) 林で囀り 志賀鉄雄
5.10 [片山] キヒタキ (1) 手賀の丘公園囀り 志賀鉄雄
5.10 [柏市] ツミ (1) 8:45、雌が巢で抱卵中 飯泉仁
5.10 [片山] ヤマガラ (1) 手賀の丘公園囀り 志賀鉄雄
5.11 [柏市] ツミ (1) 9:43、雄がカスを追尾 飯泉仁
5.11 [箕輪新田先手賀沼] ヒ (1) 14:45、水面の杭に止まっていた 飯泉仁・飯泉久美子
5.12 [布瀬] キヒタキ (1) 林中で囀り 志賀鉄雄
5.12 [布瀬] サコウチヨウ (1) 林中で囀り 志賀鉄雄
5.13 [手賀沼 (杭上)] ヒ (1) 上沼 1 染谷迪夫・木村稔・田中功
5.14 [片山(手賀の丘公園)] 材カ (1) 枯れ木に止まる 船津登
5.14 [片山(手賀の丘公園)] キヒタキ (1) 小枝でさえずる 船津登
5.14 [布瀬新田] サハ (1) 林の上を飛ぶ 志賀鉄雄
5.14 [片山(手賀の丘公園)] サコウチヨウ (1) 林の中を飛ぶ 船津登
5.14 [布瀬新田] チョウゲンホウ (1) 電柱より飛び立ち 志賀鉄雄
5.14 [片山(手賀の丘公園)] チョウゲンホウ (1) 上空を飛ぶ 船津登
5.14 [片山(手賀の丘公園)] ヤマガラ (3) 船津登
5.15 [布瀬] サコウチヨウ (1) オス。水田上を林の中へ、そして戻る。10分くらい後、飛び立った林の中へ。 志賀鉄雄
5.18 [北新田] カッコウ (1) 河川敷で鳴き声 (初認) 中野久夫
5.18 [北新田] チョウゲンホウ (1) 電柱上 中野久夫

- 5.19 [片山(手賀の丘公園)] 牝(3) さえずる 船津登
 5.19 [柏] 幼鳥(4) 15:12~16:00、成鳥1、幼鳥3 飯泉仁・飯泉久美子
 5.19 [柏市] ツミ(1) 9:48、雌が巣の中で何度も体の向きを変える 飯泉仁
 5.19 [片山(手賀の丘公園)] ヤマガラ(5) 船津登
 5.20 [北新田] 朴トギス(1) 河川敷で鳴き声(初認) 中野久夫

今回寄せられた鳥の全種名

アオサギ、アオジ、アオバズク、アカハラ、アマサギ、アリスイ、イソシギ、イソヒヨドリ、イワツバメ、ウゲイス、ウソ、ウミネコ、エナガ、オオジュリン、オオタカ、オオバン、オオヨシキリ、オオルリ、オカヨシガモ、オナガ、カイツブリ、カッコウ、カルガモ、カワウ、カワセミ、カワラヒワ、カンムリカイツブリ、キアシシギ、キジ、キジバト、キビタキ、キョウジョシギ、クイナ、クサシギ、コイカル、ゴイサギ、コガモ、コゲラ、コサギ、コチドリ、コブハクチョウ、コムクドリ、サシバ、サンコウチョウ、シジュウカラ、シメ、ジョウビタキ、シロハラ、スズメ、セグロカモメ、セグロセキレイ、セッカ、センダイムシクイ、ダイサギ、タシギ、タヒバリ、チュウサギ、チュウシャクシギ、チュウヒ、チョウゲンボウ、ツグミ、ツバメ、ツミ、トビ、トラツグミ、ノスリ、ハイイロチュウヒ、ハクセキレイ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ハヤブサ、バン、ヒバリ、ヒヨドリ、ヒレンジャク、ビンズイ、フクロウ、ベニマ

シコ、ホオアカ、ホオジロ、ホシハジロ、ホトトギス、マガモ、ミサゴ、ムクドリ、ムナグロ、メジロ、モズ、ヤマガラ、ユリカモメ、ルリビタキ 計91種
 <番外種>
 アイガモ、カワラバト、コジュケイ

今回の投稿者の総投稿件数

安野昌彦	49
池田日出男	1
飯泉仁	379
飯泉仁・飯泉久美子	309
桑森亮	4
志賀鉄雄	51
鈴木静治	172
鈴木静治・猪爪敏夫・船津登	28
鈴木静治・猪爪敏夫・間野吉幸 ・池田日出男・蒲田知子・船津登	20
鈴木静治・大久保陸夫	1
染谷迪夫・木村稔・田中功	28
田中功	1
中根忠	10
中野久夫	75
平岡考	8
船津登	172
松田幸保	1
松本勝英	7
百瀬喬	3
総計	1319

(浅井久)

会員からの鳥情報

【我孫子駅周辺のイソヒヨドリ】

2014.04.08 松田幸保

今日、我孫子駅北口付近でイソヒヨドリのさえずりを聞きました。常陽銀行の屋上の方でしたが、姿は確認できませんでした。

2014.04.09 池田日出男

数日前に、イソヒヨドリがエスパ近くの駐車場に降りるのを見ました。残念ながら、カメラは持っていませんでしたので、証拠写真はありません。

2014.04.09 平岡考

私は、4/1の朝の出勤時に我孫子駅南口のロータリーでイソヒヨドリが囀っているのを聞きました。

【中峠周辺の鳥便り】

2014.04.09 松本勝英

ちょうど一週間前から、中峠の斜面林にサシバが来ています。最初は1羽でしたが、今日、3羽が盛んに鳴きながら飛翔しています。いつものペアに「流れ者」が割り込んで来たのか鳴き声は尋常ではありません。うまく収まってくれないかと気になっています。

2014.04.14 松本勝英

今朝、9時少し前、自宅前の杉の梢に小太りの見慣れぬ群れに気づきました。カメラを持ち出し、急いで証拠写真を撮りました。10数年振りの「レンジャク」との再会です。アップからヒレンジャクと分かりました。総勢14羽でした。私が不用意に近づきすぎたのか東方向に飛去。悔恨の再会でした。

2014.04.24 松本勝英

アカハラ中峠居残り？ アカハラ をみました。まだ北帰行せずに居残りしてくれていたようです。それとも南関東の方からの途中下車かも知れません。地上からフェンス上がったところを証拠写真しました。

2014.05.05 松本勝英

普段は水路でしか見られないカワセミが、13時ごろ犬の散歩帰りに家庭菜園の竹竿の上から一文字に斜面林に突っ込んで行くのを見ました。木の根付近には大小の穴が沢山あり、そのどれかに入ったのでしょうか。明日からの散歩の楽しみが、また増えました。

2014.05.10 松本勝英

愛犬に引かれるまま、いつもより一本先の農道に行きました。植わったばかりの稲に見え隠れするコチドリ2羽に会えました。目の周りの金環とツーショットを狙って近づいたら、側の草原にサシバがダイビング！どっちを撮るか一瞬の迷い、サシバは獲った獲物（蛇ではなかった）を啜って飛び去ってしまった。

2014.05.13 松本勝英

遅めの昼食後、雨上がりを待って愛犬の散歩に出掛けました。中峠周辺は、田植えの真っ最中です。クリーンセンター沿いで、畔に並んだムナグロを見つけ、近づくにつれ水田や畔影から数が増え、真横でカウントしたら、偶然39羽でした。サンキュウ！

2014.05.23 松本勝英

今朝9時少し前、自宅上空からホトトギスの今季初の声！通過したのか2度聞けたけれど静かになった。午後2時過ぎ、今度は近くの林で何度も続いて鳴いていた。朝のものとは別個体で、”途中下車”の休憩らしい。声はすれども姿は見れず、いささか消化不良の渡来初認です。

2014.05.30 松本勝英

ホトトギスは、早朝から夕方まで、何度も声（遠近様々）が聞けました。唯一、夕方、飛翔の姿を見れましたが慌ててシャッター切っても空振り、「空」だけでした。通過だけでなく、ある林で小休止するのか？そのあたりで連続して声がありました。という有り様で、中峠周辺は連日、視力聴力検査みたいに盛況です。

2014.05.31 古出洋子

サシバは犬の散歩で亀成川周辺を歩いていると必ず見かけます。昨日は18:30頃でした。田んぼの低い杭に止まっていた。ホトトギスも20日に初めて鳴き声を聞きその後近くの林で毎日鳴いています。松本さんの環境と近似していますね。

2014.05.31 木村稔

松本さん こんにちは 木村稔です。

サシバ、ホトトギスの情報を多少羨ましく思いながら、読んでいます。ここに来てやっと寿町内でもホトトギスの声が3日連続で聞かれましたが、夜中の3時頃に通過しながら鳴く声を聞くのみです。

【手賀沼周辺の鳥便り】

2014.04.19 桑森亮

今日は、秋ヶ瀬の下見に金子さん、小澤さんと行って来ましたが、我孫子に早く帰れたので、手賀沼遊歩道を歩き、岡発戸谷津まで足を伸ばしました。遊歩道では、滝下広場の泥田でタシギ3羽、コチドリ2羽が観察され、13日(日)の総会后に歩いた際にも観察しています。(渡辺俊文さんが写真を撮っていました。) 岡発戸谷津では、あまり鳥はいませんがビンズイが桜の木の下で何か啄んでいました。

【布佐周辺の鳥便り】

2014.04.30 鈴木静治

4/30は雨模様でしたが田に水が入り、田植え進んだ布佐周辺を傘を差し15:30-17:30に散歩しましたところ、チュウシャクシギ、ムナグロ、キョウジョシギ、キアシシギが観察できました。夕方100羽ほどのムナグロとキョウジョシギの群れが鳴きながら田の上空を飛ぶさまは迫力あります。葎原ではオオヨシキリの鳴き声、キジの鳴き声、セツカの囀りも聞こえました。また、手賀川近くの林では渡り途中の十数羽のコムクドリの群れも観察できました。

2014.05.01 百瀬喬

今晩は。昨年入会したばかりの百瀬喬です。実は私も29日の3時半ころから1時間ほど発作地区を探鳥して、4時ごろに100羽ほどのムナグロとキョウジョシギが田の上を飛ぶのを見ました。まだ初心者ですからその時は何の鳥かはわからなかったのですが、撮影した写真と図鑑に掲載されている飛翔しているときの姿を見比べてムナグロとキョウジョシギと判断しました。もしかすると鈴木さんが見たのと同じ群れかも知れませんね。柏に帰る途中に車窓からアマサギらしい1羽も見ましたが車を停めるスペースがなく確認は諦めました。それから少し走って布佐の信号付きの交差点を右折してすぐ右側の田圃でシギらしい数羽の姿を確認し、停車して確認したところ今度はチュウシャクシギで採餌中の5羽を確認しました。

【シジュウカラの営巣】

2014.05.31 松田幸保

1年前にあった第1回野鳥サロンの主題はシジュウカラでした。その時、何人かが「自宅に設置した巣箱に入ってくれない」と発言し、私もその一人でした。今年初めて、我家の巣箱も採用され、ただいま抱卵中のようです。巣箱は数年前までJBFの我が会ブースで販売されていたモデルです。そっと見守ります。

2014.05.31 間野吉幸

私の自宅裏のシジュウカラの巣箱は、シジュウカラがよく様子見に来たのですが数年営巣しませんでした。今年は初めて営巣し親鳥がせっせと幼虫を運んでいたのが喜んでいました。しかし、そこにスズメの夫婦が営巣しているシジュウカラの巣を横取りする行動に出ました。スズメは巣箱の中を覗いたり、巣材を銜えてきたり、巣箱の上で留まったり、近くの枝に止まりシジュウカラが近づかないよう見張っていました。シジュウカラは餌を銜えながら近くの木の枝や、サツキの茂みの下にいてスズメの様子を窺って、

スズメがいない所を見計らって餌を与える行動が続いていました。また近づくともスズメがシジュウカラを追い払う行動をするためだんだん餌を与える回数が少なくなっているようです。

追伸：今日は我孫子市白山でもホトトギスの声が盛んに鳴いています。

【利根川ゆうゆう公園】

2014.06.04 鈴木静治

久しぶりに利根川河川敷のゆうゆう公園ビオトープで葦の若葉の中、茎にとまり轉るコヨシキリが数羽見られました。もちろんオオヨシキリ、ヒバリ、セッカの轉りも聞くことが出来ます。コヨシキリを見たい方にはお勧めの場所です。

寄稿

とりとめもなく

古出洋子

私がこの会に入会したのは2007年。

正月...確か1月2日の第1日曜日...例年なら年始客が多くとても出かける事などできないが、喪中とあってこのチャンスとばかりに当時入会していた日本野鳥の会の手賀の丘探鳥会に参加した折、間野会長より声をかけられ(当時俳句も始めており吟行会が月の第1日曜日のため探鳥会にはなかなか参加することが出来なかった)「我々の探鳥会は第2日曜日なので是非」と言われ参加してみると、会の皆さんが非常に親切で和やかな雰囲気であったので心安らく思いで入会しました。

地元手賀村に生まれ沢山の鳥が周りにいたにも拘らず、ハト、スズメ、カラス位しか判らなかつたので身近にいる鳥の名前を知りたくて始めたことです。会の方々は遠くの水鳥などを捉えると「～がスコープに入っています。観てください」と本当に親切に教えて下さいました。

定例探鳥会は月一回で半日ということもあり、朝家事を手早く済ませ探鳥会に参加すると全く違った気分浸れ次第に鳥の名前も覚えて行き楽しくなってきました。時々就学前の孫の夏妃も一緒に連れて行き皆からはこれで平均年齢が若返ると「ナッチャン、ナッチャン」と邪魔扱いにもされず大切にさせて頂きました。やがて日帰り探鳥会・一泊探鳥会にも参加するようになり近くでは見られない鳥や植物に非常に詳しい人に花の名前なども教わったりし会員の方々の名前も覚えて行きました。特に親密になったのは40周年記念事業誌発行のための毎月の探鳥会にあつたと思います。私が参加したのは「北柏ふるさと公園」と「手賀の丘公園・染井入落」の2か所のため午前午後と昼食を共にして行われたことにもあつたでしょう。植物に詳しい人も加わり、裸木が若葉を付けやがて花が咲き実をつけ紅葉になり四季の移ろいが非常に感じられた中での探鳥会でした。日影のない真夏の照りの中、また寒風吹きすさぶ手賀沼周辺でのことは良い思い出となっています。お陰様で会員の公募により決まった冊子名《四季の手賀沼周辺散歩》は統計集の《手賀沼の鳥》と共に大変好評で、40周年記念事業やJBFであつという間に完売されました。ワンコインということもあり財政難の会としてはもう少し高くても良かったのにと私自身は思っていましたそれが我が会の良いところでしょう。

しかし私の鳥との関わりは探鳥会の時だけでした。それはパッチワークを始めたこと。手仕事とあって夢中になると家事をも放り出す有様だったので全く余裕がありませんでした。

しかし昨年体調を崩しパッチワークも止め体力作りを始めるべく今年から近くの亀成川周辺を歩き始めました。冬でもあり人影は全くありません。双眼鏡を持って出るようにしました。カワセミは毎日チィチィツッピーと鳴き声が聞こえたかと思うとさあっとあの青色を一瞬見せて川下へ飛び去り、電線ではモズが鳴きやがて少し大きめのノスリやチョウゲンボウ、その先にはカワラヒワ、スズメの大群が。しかし人馴れしていないため近づくると一斉に飛び去り通り過ぎるとまた戻っているという状態。川中には物怖じしないオオバンがゆうゆうと泳ぎ来、バンは見つけたかと思うとすぐに枯葎に潜り込んでしまい、その先にはコガモの群れが三々とまだ眠っています。数日歩いて気が付いたことですが居場所が決まっているのです。翼があつてどこへでも飛んで行けるのに本当に決まっているのです。

ある日田んぼに白っぽい鳥が降りました。タゲリでした。嬉しくて暫く見とれていました。数日後やっと確認できるぐらいの写真を撮ることができました。近くでも歩けばこんなにも種々の鳥に出合えるんだと寒さも全く気になりませんでした。

その後屋敷木から落ちたメジロとカワラヒワの巣（後に鳥博に届ける）のお陰で繁殖にも目が行く様になりました。5月庭の柘植の天辺から賑やかに4羽程の雛が飛び立ちうち1羽が墜落。急いでカメラを取りに行くと既に飛び立って居ませんでした。スズメの様でした。

東側の埋立地でコチドリが巣作りに失敗。それは4月中旬の夕暮時でした。何かかと思うような甲高い「ピッ、ピッ、ピッ」という鳴き声。それは翌朝6時頃からまた始まったので行ってみると2羽の鳥がぱっと飛び立ちました。コチドリの様でした。直径10cm深さ5cm程の巣穴が2か所作られ白い粘膜質のものがありません。フィールドガイド日本の野鳥によると「繁殖期にはピョ、ピョ、ビュービューなどと鳴いて飛び回る」とありイカルチドリの項に「ピッ、ピッ、ピッと鳴く」とあるのですが。1か月ほど過ぎた5/13の夕方再び同じ鳴き声が聞こえ翌朝も然り。用心をして食卓から双眼鏡で観察しました。1羽が例の甲高い鳴き声を上げながら忙しく走り回っているのに他の1羽は2,3歩歩いては地面をつつきのんびりとした様子。こちらは涼やかにピビューピビューと鳴く。やがて先の1羽が尾羽を広げ突き進むと抱卵するような体勢になったのでカメラを持って外に出て樹の幹に隠れ2,3枚シャッターを押す。声がしなくなってから行ってみると先月より浅めの穴が5か所程作られており2回目も失敗に終わった様です。あのカップルはいまだに産卵場所が確保できないのかと心配になりました。

バードウイーク「Enjoy 手賀沼！」での探鳥会でも滝下広場先の折り返し地点でアヒルのいじめかと思われるような交尾に遭遇。雌が水中に沈められ窒息したかと思われたのです。

5/20 ウグイスの名調子の彼方でホトトギスの鳴き声が聞こえたような気がした。やがてそれははっきりと聞こえ、とうとう“夏は来ぬ”の感強し。

5/27 第6回野鳥サロンに参加、「万葉集と鳥」で畠中さんのすらすらと歌い上げる代表作和歌と説明に高校時代の古文の時間を思い出しながらしばし万葉人になり、続く松田さんのミサゴの漁の様子ビデオ...折角捕った大魚を食べるまでの苦心やその獲物をカラスやカモメに狙われる様...などとても素晴らしいサロンでした。昔人の様に鳥の色や鳴き声に思いを馳せ過ごせた時代は良かったらうかと、のんびり屋の私は思うのです。

孫の夏妃も小6になり探鳥会に付いて来る暇がなくなった様です。身長も私に近づき、やる事為す事祖母と孫が入れ替わった様な状態になっていますが、少し具合が悪くても探鳥会に参加して鳥を追いかけていると元気になるので当分この会に居続けられそうです。会の老練な方達が物故者となり或いは探鳥会から遠のく一方、探求心の強い、しかも初めから多くのことを知り、時代の先端機器を駆使する方などの入会があり我が会も益々活気を帯びてくると楽しみにしています。

布佐周辺の初夏の鳥見 オオヨシキリ、コヨシキリ、カッコウ

鈴木静治

1. オオヨシキリ：我孫子市相島、下沼田、印西市発作の田に水が張られ、田植えが始まる4月終わり頃から5月中旬まで、春の渡りのシギチ、多くはムナグロ、キョウジョシギ、数は少ないけれど、大きいので目立つチュウシャクシギ、足の黄色いキアシシギ、時としてハマシギも来ます。この頃になると水田の上空を鳴きながら数十から百羽で飛ぶシギチに目を奪われますが、水路横に茂る葦の繁みにオオヨシキリが現れます。オオヨシキリはまだ葦が十分長く成長しない葦原でギョギョシギョシと囀りますので、居ればすぐ判ります。この葦原に行けば青々した葦の先でやかましく囀る姿が見え、数が多くなりますと、縄張り争いで追いかっこをする様子、時に木の上、電線にとまり囀る姿が観察できます。初認日から暫くは東南アジアからよく来てくれたと思うと同時に一年ぶりに会う物珍しさからよく見に行きますが、その後はまたやかましくオオヨシキリが鳴いているなど思うくらいで注目しなくなります。でもオオヨシキリの生態は意外と知らないものです。オオヨシキリの生態については昭和初期、秋田県の雄物川の暑い葦原で根気よく調査された仁部富之助さんの著書「野の鳥の生態 4、5巻 1979年大修館書店」の中で、「巢の作り方」、「孵化から巣立ちまでの親子の生活」、「日常」の項で詳細な観察が記述されていますのでそこから要点を列記してみます。「巣作り」は雌の役目で、雄は手伝わないようです。雄は自分の縄張りを守るため一日中囀っています。縄張りの中に数羽の雌の巣があります。そういえば暗くなる夕暮れでも縄張りを守るため葦原では雄の囀りで賑やかです。巣は葦原の葦 2~5本の茎を支柱とし、地上より0.6~2mの高さに作ります。支柱の数はヨシが密に生えた場所では4~5本で、広いところでは2~3本となります。巣の重さを分散するためには支柱が多い方がよいのですが、強風時には支柱が多ければ動揺が激しく支柱1本ずつのなびき方、反発の度合いも一致を欠くので、1~2本の支柱だと安定しているとのこと。「孵化から巣立ち」についてはオオヨシキリの卵は親鳥が抱卵後11~12日で雛が生まれますが、育雛期は6月中旬~酷暑期の8月中旬にわたりますので、狭い巢内にいる雛たちは来る日も来る日も激しい暑さと戦うこととなります。幼雛は直射日光にはすこぶる弱いので相当の苦痛となります。もっとも晴天であっても葦の葉を揺るがす程度の風があれば交差する葉が陰をつくり、涼風がたえず流れるので過ごしやすいのですが、反対に曇天無風の日は鬱陶しく、むし苦しさは想像を絶するようです。巣の中の雛は3羽の場合は三菱形、4羽の場合十字花形、5羽の場合梅花形配列をとり喘いでいます。これらはお互いの接触を避け、体温が平等に全体から発散するためです。雛を育てるため親雌鳥は頻りに餌獲りをし、雛に餌を与え、与え終わると雛の糞を啄み嚙下します。雛が大きくなると、餌は葦原内や手近な土地だけでは到底賄いきれなくなり次第に遠くまで餌を求めるようになります。巣立ち雛の翼が十分発達していない時期のため、脚の力と足指の握力による葦の支柱に「よじ登り型」と、巢内で立ち上がり、あっという間に前方へ跳んでそこに横たわる葦の1本に、更に前方へ一気に飛ぶ「飛び降り型」があり、その時は親鳥が騒々しく叫びまわります。巣立ち後3~4日後は健脚にものをいわせて葦の間で曲芸の連続で、親鳥も餌は葉の上で与えるようです。5~6月に囀り誇った雄の自慢の喉も7月中下旬に止まってしまいます。鳴きたくても鳴けないのに、懸命に声を振り絞っているのを時々見ます。そして、オオヨシキリは常夏の地、越冬の別荘への旅立ち時期の10月中~下旬に日本から去るのです。

2. コヨシキリ：前述のオオヨシキリの鳴き声は葦原で聞きなれていますが、コヨシキリは近くにいななく小見川・笹川の利根川河原の葦原で、オオセッカ、頭の黒くなった夏羽のコジュリンと一緒に観察するものと思っていました。ところが本会会員の久大保さんより利根川のピオトープにも来ているとの話があり、2009年~2013年5月下旬~7月葦原で葦、葦原

の低い柳にとまり囀るコヨシキリを観察しました。はじめの1~2年はコヨシキリの習性が判らずあまり見ることが出来ませんでした。3年目からは習性、囀る場所が判るようになり、時として訪れるカッコウの声を聴きながら、新緑の葎原の柳にとまり囀るコヨシキリを観察するのは風情のあるものです。この頃は、セッカ、ヒバリが頭上で飛び、オオヨシキリの囀り等を聞くのも楽しいものです。オオヨシキリは人に気づくと、葎の茎を下へスルスルと下がっていくのに対し、コヨシキリは余程近づかない限り、下に降りず反対に上に登り囀ります。オオヨシキリの口の中は橙赤色に対しコヨシキリの口の中は黄色く、オオヨシキリより細い声で囀り、小柄で可愛いコヨシキリの写真は撮りやすいので、ついつい多く写真を撮ることになります。利根川のピオトープで未だコヨシキリを見られていない方は今季是非コヨシキリを探してみてください。

3. カッコウ：歌にあるような牧場、例えば戸隠高原の牧場、茨城県の花貫溪谷・里見牧場等でしかカッコウの鳴き声は聞くことが出来ないと思っていたところ、2009年5月末たまたま利根川堤防のサイクリング道を早朝ランニングしていた時、川岸の柳の大木の頂きにとまり、体を反らせ尾羽を上下させながら、鳴くカッコウを見、家の近くにも居るのにビックリすると同時に嬉しくなったのを今でも覚えています。2010年以降前述のコヨシキリとカッコウを探し観察するのが初夏の楽しみになりました。早い時は5月上旬、遅い時は6月上旬に、布佐～青山の利根川河川敷で、例えば江蔵地先のゆうゆう公園、古戸地先の利根川ピオトープ、東我孫子カントリークラブで観察出来ました。北新田では本会会員の中野さんが多く観察されています。今季も5月18日に観察されています。柏市の弁天下でも見たことがあります。カッコウの鳴き声を聞きますとまさに初夏になった感じがします。カッコウの声は誰でも判りますが、林の縁、葎原の中の高い木の頂きにとまり鳴く時以外なかなか姿を見ることが出来ないものです。カッコウといえ、利根川河川敷の場合、卵の大きさ、卵の模様が似ているオオヨシキリ、コヨシキリ、ホオジロ、モズ、ハクセキレイ等の巣に托卵し、仮親の卵より早く孵化し、生まれたばかりの幼鳥が仮親の卵を巣から蹴落とすことはよく知られています。しかしカッコウの孵化は前述の仁部富之助さんによれば、平均12日、仮親の卵に孵化も平均12日、モズは15日ですので、必ずしもカッコウが仮親の卵より早く孵化することにはなりません。どうも仮親の巣の状況によりカッコウは9~11日で孵化するようです。また、仮親からの餌を一人占めし、仮親より大きくなっても、小さな仮親から餌を貰うこともよく知られています。どうして托卵する小鳥に判るように雄が大きな声で鳴くのでしょうか。小鳥の注意を雄に向けさせ、隙が出来た瞬間、雌が托卵するためか又は雄が小鳥の巣の様子を見て、托卵に適した時期にある巣の場所を雌に知らせているのでしょうか。またカッコウは2羽出会うと喧嘩をしますし、群れを作りません。幼鳥が独り立ちする頃には生みの親は巣の近くにはいません。親鳥の方が早く越冬地の東南アジアに帰るようです。そのためカッコウの渡りは単独で行うことになります。ハクチョウ、ガン等は一度親鳥と一緒に渡りをし、地形等のルート覚えて上若鳥の群れで渡りをするとはいわれていますが、カッコウは群れを作らず、渡りの経験が無いのに、単独で渡りをすると驚きです。まさに遺伝子DNAに渡りの方法が組み込まれているとしか思えません。なお、今季は5月下旬にカッコウの仲間のホトトギスの「東京特許許可局」の鳴き声が早朝よく聞こえました。ホトトギスは姿を見せず、鳴き声だけはよく聞くことが出来ます。ホトトギスはウグイスの巣に托卵するためウグイスのいる藪にいて、暗い早朝に飛びながら鳴くため、姿が見えにくのです。

以上、初夏、布佐周辺の鳴き声で鳥の種類が判り、姿を見れば鳥見をしていて良かったなと幸福な気分になれるオオヨシキリ、コヨシキリ、カッコウを紹介してみました。

会からのお知らせ

<メーリングリスト積極的活用のお勧め>メーリングリストは登録されている会員専用です。会員以外には公開されません。大変簡単、迅速、そして役に立つ、会員間のコミュニケーション手段です。

下記メーリングリストのアドレス宛てにメールするのみで、登録されている会員には全員に即時に自動配信されます。写真やファイルも添付できます。

メールは自動的にウィルス・チェックされ、安全、安心なコミュニケーション手段です。皆様の探鳥活動での感動や、野鳥に関する情報、記録の発見、野鳥に関するイベントや出版物などの紹介、珍しい鳥／写真等のご披露など、気軽に会員の皆様と情報交換をしませんか？これまで以上に、積極的にご活用ください。

メーリングリストのアドレス：ab-yacho@abikoyacho.sakura.ne.jp

また、メーリングリストへ登録されていない方はこの機会にぜひ登録ください。

なお、携帯電話でメーリングリスト登録の場合は、携帯電話会社が迷惑メール防止機能、なりすましメール防止機能を設定している場合があります。これらの機能を解除いただきませんとメーリングリストからの配信メールがエラーとなることがあります。受信がうまくできない場合は、下記担当幹事へご相談ください。

我孫子野鳥を守る会 メーリングリスト担当幹事

金子雅幸

相良直己

<サマータイムの実施について>本年度トライアルとして、夏の期間限定で、日照時間を有効に使い、かつ野鳥との出会いが少しでも増えることを期待して7月～9月の手賀沼定例探鳥会の開始時間を早めます。

実施期日： 7月13日(日)、8月10日(日)、9月14日(日)

集合時間： 午前8時（通常より1時間早まります）

解散時間： 午前11時頃

会員の皆様のご賛同、ご協力をよろしくお願い致します。（事務局）

<新入会員> 神部充（北杜市在住）

<ご寄附> 天野正臣さんよりご寄付を頂きました。厚くお礼申し上げます。

ほーほーどり No.239 （2014年7～8月号）

発行 2014年7月1日

発行人 間野吉幸

編集人 猪爪敏夫、古出洋子、小玉文夫、佐々木隆、野口紀子、松本勝英、宮下三禮

事務所 〒270 1154 我孫子市白山3-8-16-104 間野方

連絡先 〒277 0005 柏市柏1001-5 野口隆也 Tel 04 7163 7898

URL <http://abikoyacho.org/>

郵便振替 00140-2-647587 我孫子野鳥を守る会

会費 年会費2,000円（大学生・高校生1,000円、中学生以下500円、家族会員無料）